



第4章 秦野市生物多様性地域戦略について

1 生物多様性地域戦略の策定にあたって

(1) 地域戦略の目的

これまで本市では、本市が目指す都市像「みどり豊かな暮らしよい都市」の実現に向けて、緑や緑地の保全・再生・創出を目的に「秦野市緑の基本計画」を策定し、総合的かつ効果的な施策の展開を推進してきました。

この間に、生物多様性基本法の制定に伴う生物多様性国家戦略の策定やCOP10の開催など、生物多様性保全に関する社会情勢や本市における生物多様性の現状と課題を踏まえ、「秦野市緑の基本計画」に「生物多様性地域戦略」を新たに位置づけることとし、生物多様性への取組みや保全に努めていきます。

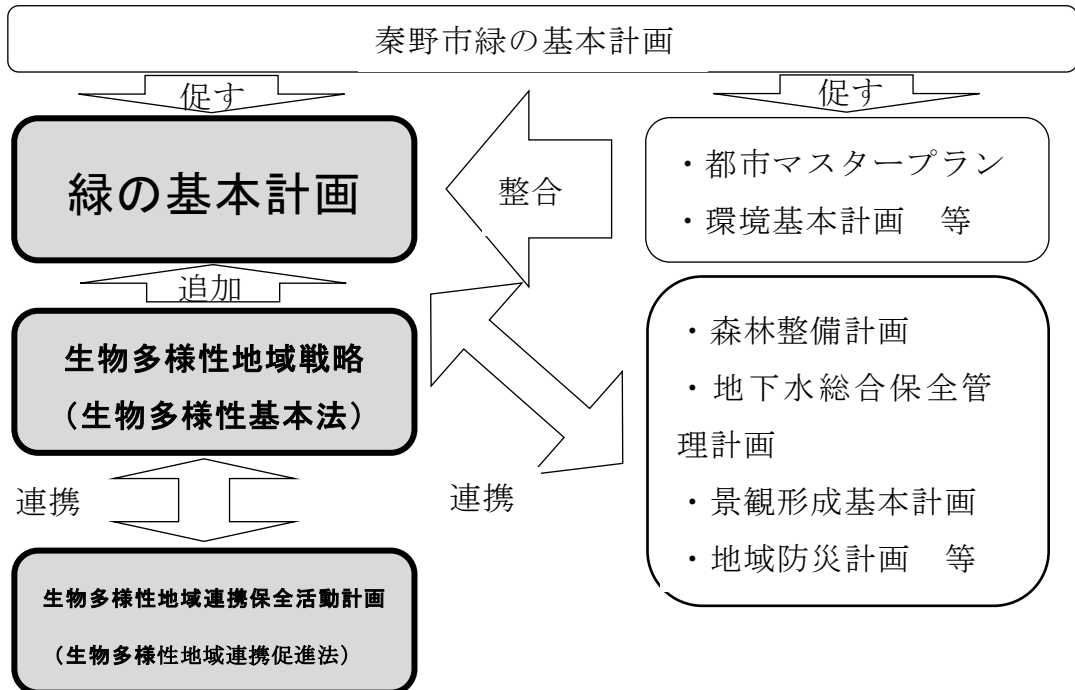
(2) 地域戦略の期間

「秦野市緑の基本計画」の期間に合わせて、令和2年度から令和7年度とします。

(3) 地域戦略の位置づけ

都市緑地法に基づき策定された「秦野市緑の基本計画」に、「秦野市生物多様性地域戦略」を組み込み、生物多様性地域連携促進法に基づき策定された「秦野市生物多様性地域連携保全活動計画」※と連携を図っていきます。

※地域における多様な主体が有機的に連携して行う生物多様性の保全のための活動（地域連携保全活動）の実行計画。





2 生物多様性について

(1) 生物多様性とは

約40億年の地球の歴史の中で、地球上の生物は、様々な環境に適応し、進化し、多種多様な生物が生まれてきました。これらの生物には、一つ一つに個性があり、地球上に生きる全ての生物が、直接的または間接的に支えあって生きていることを「生物多様性」と言います。

生物多様性条約では、生態系の多様性、種の多様性、遺伝子の多様性の3つのレベルの生物多様性があるとされています。

ア 生態系の多様性

様々な生物を中心に、大気、水、土壌などの環境要素が相互に関わり合いながら、森林や里山、河川などの環境があり、それぞれの特質に応じた生態系が存在しているように、多様な生態系が存在していることを「生態系の多様性」と言います。

イ 種間（種）の多様性

様々な人や動物、植物、細菌等の生物が生息・生育していることを「種間（種）の多様性」言います。

ウ 遺伝子の多様性

同じ種類や動物や植物、人間でも、地域により形態や模様、生態などが異なります。このように遺伝子のレベルで多様な違いがあることを「遺伝子の多様性」と言います。

(2) 生態系サービス

私たちの生活に欠かせない酸素や水、食料などは、生物多様性が与えてくれる恵みです。このことを「生態系サービス」と言い、4つに分類されます。

ア 供給サービス

豊かな土壌によって作られる農作物、石油などの燃料や木材、薬品の提供など、私たちの生活に重要な資源を供給するサービスのことを言います。

イ 調整サービス

植物や土壌などによる水質改善、森林などの生態系による気候の調整や自然災害の防止、緩和と言った、環境を制御するサービスのことを言います。





ウ 文化的サービス

国や地域ごとに、生態系や気候は様々です。それらの違いは、地域固有の文化や景観、宗教などを育み、私たちの生活に精神的な恩恵を与えているサービスのことを言います。

エ 基盤サービス

水の循環、土壌形成、植物の光合成など、他の生態系サービスを支える基盤となり、他のサービスの供給を支えているサービスのことを言います。

(3) 生物多様性の4つの危機

私たちの生活に様々な恵み（生態系サービス）を与えてくれる、生物多様性ですが、生物多様性を失ってしまう、4つの危機があるとされています。これらの危機は、人間活動による影響が主な原因であると考えられており、種の絶滅速度は、自然状態での速度に比べて遥かに早く、たくさんの生物たちが危機に瀕しています。

ア 第1の危機（人間活動による影響）

開発に伴う森林伐採や、埋め立て工事による生息、生息地の破壊。

イ 第2の危機（自然に対する人間の働きかけの縮小による影響）

石炭から石油へのエネルギー構造の変化や少子高齢化、都市部への人口の集中による、里地里山の荒廃。

ウ 第3の危機（人間により持ち込まれたものによる影響）

人類は技術の進歩により、より多くの物や人を、より遠くにより速く、運ぶことが可能となりましたが、それに伴い、外来種や化学物質などが持ち込まれ、地域固有の生態系に大きな影響を与えています。

エ 第4の危機（地球環境の変化による影響）

現在地球では、地球温暖化のほかにも、極端な気象現象の多発や海洋の酸性化などの環境の変化が進行しています。その環境の変化はとても速く、適応できない生物や生息・生育場所の移動ができない生物への影響が危惧されています。

(4) 外来生物について

もともとその地域にいなかったのに、人間の活動によって他の地域から入ってきた生物のことを「外来種」と呼びます。

在来種（本来の分布域に生息・生育する生物）でも、日本国内のある地域から、もともといなかった地域に持ち込まれた場合には「外来種」とな





り、もともとその地域にいる生物に影響を与える場合があります。これらを「国内由来の外来種」と呼んでいます。

外来生物法では、海外から日本に導入されることにより、その本来の生息地又は生育地の外に存することとなる生物を「外来生物」と定義しています。

3 生物多様性に関する本市の取組みの方向性について

(1) 生物生息状況の調査、分析

ア 調査方法

市内に点在する、昔ながらの田園風景や自然林が感じられる水田・雑木林（23箇所）、本来の生態系を保っている寺社林及び市街化地区の公園（10箇所）、市内を流れる河川（6河川）で生き物調査を実施しました。なお、既に生き物調査の資料がある場合には、その資料を参考にしています。

調査期間は、令和元年8月から令和2年9月までとし、季節の影響を受けにくくするため、季節の違う時期に2回以上実施しました。

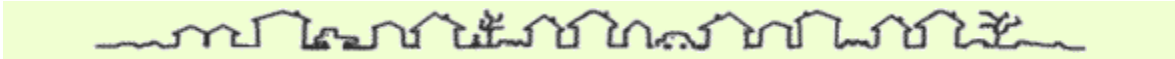
調査地内を調査員が歩き、指標生物※が確認された場合は記録する。指標生物の中には、昼間に確認することが難しい生物もいるため、夜間に調査を実施する場合があります。

生物の確認方法は、捕獲、目視、鳴き声、痕跡、死骸とし、特定が難しい場合は、写真または捕獲して後日確認しました。

この調査では、調査地ごとに確認されなかった生物が、必ずいないと断言するものではありません。

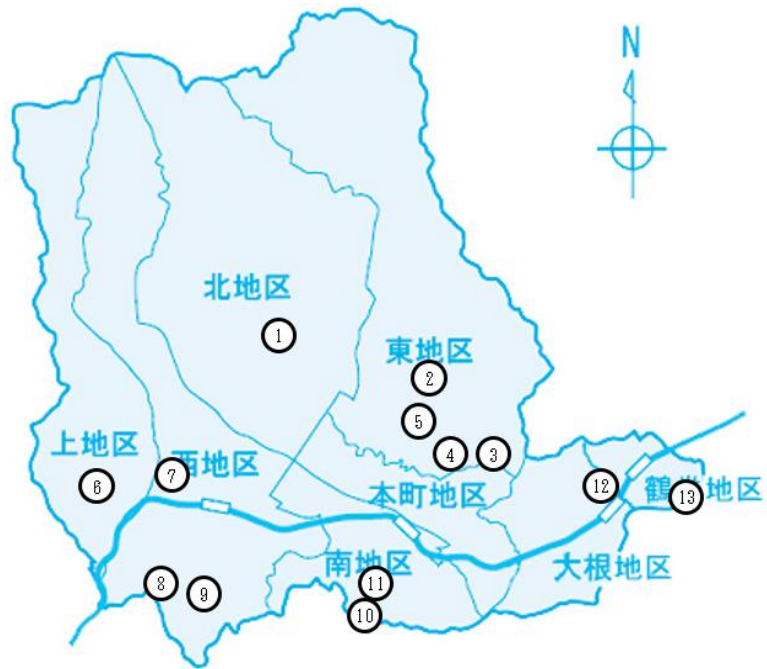
※秦野市生物多様性地域連携保全活動計画の指標生物を参考に、雑木林、水田でそれぞれ25種選定し、指標生物とは別に外来種も確認項目に加えました。河川の指標生物については、相模川及び酒匂川水系で5年毎に実施されている神奈川県民参加型調査の動植物57種にアメリカザリガニ、ウシガエルなどの外来種を追加しました。





イ 調査地

(7) 水田 (13 箇所)



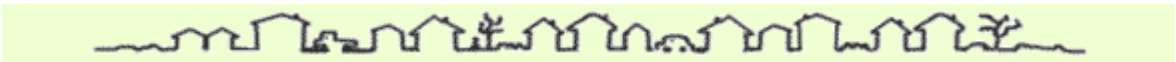
- ①菩提 ②東田原 1 ③名古屋 1 ④名古屋 2 ⑤名古屋 3 ⑥柳川 1 ⑦堀西
 ⑧千村 ⑨渋沢 1 ⑩今泉 1 ⑪今泉 2 ⑫北矢名 ⑬鶴巻

(イ) 雑木林 (14 箇所)

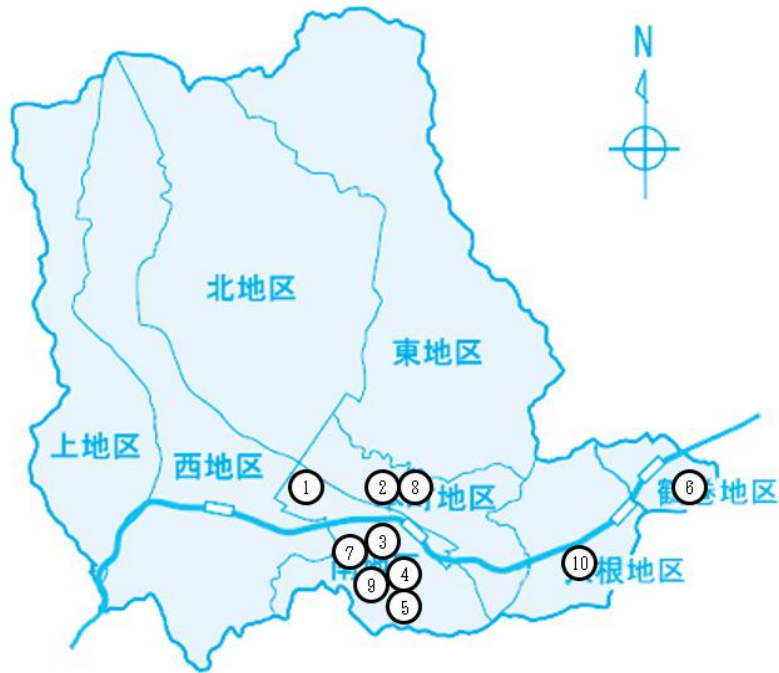


- ①横野、②東田原 2、③羽根、④名古屋 2、⑤名古屋 4、⑥蓑毛、⑦柳川 2
 ⑧渋沢 1、⑨渋沢 2、⑩今泉 1、⑪南が丘、⑫上大槻、⑬曾屋 1、⑭曾屋 2





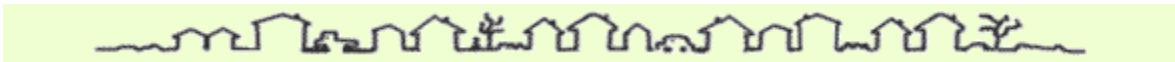
(ウ) 公園、神社



- ①公園 1、②公園 2、③公園 3、④公園 4、⑤公園 5、⑥公園 6、⑦神社 1
 ⑧神社 2、⑨神社 3、⑩神社 4

(エ) 河川





ウ 調査結果

(ア) 水田

地区	確認された指標植物	確認された指標動物
南地区	ヒカ`ンハ`ナ・ケキツネノホ`タン・ツリフネソウ・セリ	ホトケト`シ`ヨウ・ヒメアメンホ`・シマアメンホ`・オニヤンマ・ハク`ロトンホ`・シオカラトンホ`・サワカ`ニ・マルタニシ・カリニナ
東地区	モタ`カ・ミス`オオハ`コ・ヒカ`ンハ`ナ・コカ`マ・コナキ`・タカ`ラシ・ケキツネノホ`タン・ワレモコウ・チョウシ`タテ`・ミゾ`ソハ`類・サクラタテ`類・ミミナグ`サ・ノミノフスマ・ツリフネソウ・ムラサキサキ`ゴ`ケ・ツリカ`ネニンジン・ノアサ`ミ・コオニタビ`ラコ・カントウヨメナ・タウコキ`・セリ	ヤマアカカ`エル・シュレーゲ`ルアオカ`エル・ツチカ`エル・ニホンイモリ・ト`シ`ヨウ・ホトケト`シ`ヨウ・タイコウチ・ミス`カマキリ・ヒメアメンホ`・シマアメンホ`・オニヤンマ・ハク`ロトンホ`・シオカラトンホ`・ケ`ンシ`ホ`タル・ヘイケホ`タル・カ`ムシ・シマケ`ンゴ`ロウ・サワカ`ニ・マルタニシ・カリニナ・カヤネズ`ミ
北地区	オモタ`カ・ヒカ`ンハ`ナ・コナキ`・ケキツネノホ`タン・ミゾ`ソハ`類・ミミナグ`サ・ノミノフスマ・ツリカ`ネニンジン・ノアサ`ミ・コオニタビ`ラコ・セリ	シュレーゲ`ルアオカ`エル・ヒメアメンホ`・シマアメンホ`・シオカラトンホ`・カ`ムシ・シマケ`ンゴ`ロウ・サワカ`ニ・シキ`、チト`リ類
大根地区	ヒカ`ンハ`ナ・ミゾ`ソハ`類・サクラタテ`類・ノミノフスマ・コオニタビ`ラコ・カントウヨメナ・セリ	シュレーゲ`ルアオカ`エル・ツチカ`エル・ト`シ`ヨウ・ヒメアメンホ`・シマアメンホ`・オニヤンマ・シオカラトンホ`・サワカ`ニ・マルタニシ・カリニナ
鶴巻地区	オモタ`カ・ヒカ`ンハ`ナ・コナキ`・タカ`ラシ・ケキツネノホ`タン・チョウシ`タテ`・ミゾ`ソハ`類・サクラタテ`類・ノミノフスマ・コオニタビ`ラコ・カントウヨメナ・セリ	トウキョウタ`ルマカ`エル・ツチカ`エル・ト`シ`ヨウ・マルタニシ・カリニナ・サキ`類
西地区	ヒカ`ンハ`ナ・コナキ`・タカ`ラシ・ケキツネノホ`タン・ワレモコウ・ミゾ`ソハ`類・ミミナグ`サ・ツリフネソウ・ムラサキサキ`ゴ`ケ・ミゾ`ホオズ`キ・ノアサ`ミ・コオニタビ`ラコ・カントウヨメナ・セリ	ヤマアカカ`エル・シュレーゲ`ルアオカ`エル・ツチカ`エル・ト`シ`ヨウ・ホトケト`シ`ヨウ・タイコウチ・ヒメアメンホ`・シマアメンホ`・オニヤンマ・シオカラトンホ`・ケ`ンシ`ホ`タル・ヘイケホ`タル・サワカ`ニ・マルタニシ・カリニナ・サキ`類
上地区	オモタ`カ・タカ`ラシ・ケキツネノホ`タン・ミゾ`ソハ`ル類・サクラタテ`類・ミミナグ`サ・ムラ	シュレーゲ`ルアオカ`エル・ツチカ`エル・ニホンイモリ・ト`シ`ヨウ・ホトケト`シ`ヨウ・ヒメアメン





	サキサギゴケ・セリ	ホト・シマアメンボ・オニヤンマ・ハゲトシ ホト・シオカラトンボ・ゲンジボタル・サ ワガニ・マルタニシ・カリナ・サギ類・シギ、 チドリ類
--	-----------	--

・ 考察

(植物)

13 か所の水田調査の結果、指標植物は 25 種中 22 種が確認された。全地域で確認できたのはセリであり、広域的に分布していた指標種はヒガンバナ、ケキツネノボタン、ミゾソバ類などである。一方、確認できなかった指標種はヘラオモダカ、アカバナ、ミゾカクシの 3 種。そのうちアカバナは 2010 年の同調査では名古屋、千村、渋沢で確認されていた。たまたま確認できなかったのか消滅したのかは定かではないが、要因として考えられるのは宅地開発など人為的要因や外来種の生息拡大であり、今回、外来種のオランダガラシは菩提を除く全地域で確認された。しかし、10 年前の同調査で確認された指標植物が今回もほぼ確認できた東地区などは、非常に良好な環境が保たれていると言える。

(動物)

水田調査地 13 か所で確認された指標動物は 25 種中 24 種であり、広域的に分布していた指標種はヒメアメンボ、シマアメンボ、シオカラトンボ、サワガニなど 6 種であった。局地的に分布していたのはトーキョーダルマガエル、ニホンイモリ、タイコウチ、ミズカマキリ、ヘイケボタル、シマゲンゴロウなどであった。2010 年の同調査では市内数か所に分布していたヤマアカガエルだが、今回確認できた地区が減少した。ヤマアカガエルはアライグマによって捕食されることが知られており、この 10 年で外来種アライグマの生息域が拡大されていることと何らかの関係があるかもしれない。



(イ) 雑木林

地区	確認された指標植物	確認された指標動物
南地区	ヒトリシズカ・フタリスズカ・ウラシマソウ・ホウチャクソウ・ホトトギス・ヤマユリ・キンラン・キンラン・エビネ・シュンラン・オオハギホウシ・ヤブラン・タチツボスミレ・ヤブコウジ・イチヤクソウ・リントウ・ヤマルリソウ・アキノタムラソウ・キッコウハクマ・オケラ・ヤブレカサ・シラヤマギク	アオシジギアゲハ・モンキアゲハ・シジギアゲハ・キマラダヒカゲ類・クロコノマチョウ・フキハッタ類・ハヤシノウマオイ・クツワムシ・アブラセミ・ミンミンゼミ・ヒゲラシ・オオヒラタシテムシ・カフトムシ・クロカナブン・スズメバチ類・カラ類・コケラ類
東地区	カンアオイ類・ヒトリシズカ・フタリスズカ・ウラシマソウ・ホウチャクソウ・ホトトギス・ヤマユリ・キンラン・キンラン・エビネ・シュンラン・ヤブラン・ニリンソウ・タチツボスミレ・ヤブコウジ・イチヤクソウ・リントウ・ヤマルリソウ・アキノタムラソウ・オケラ・ヤブレカサ・シラヤマギク	アオシジギアゲハ・モンキアゲハ・クロコノマチョウ・ハラビロカマキリ・ハヤシノウマオイ・クツワムシ・アブラセミ・ミンミンゼミ・ハンミョウ・オオヒラタシテムシ・スズメバチ類・カラ類・コケラ類・タヌキ、アナグマの痕跡
北地区	カンアオイ類・ヒトリシズカ・フタリスズカ・ウラシマソウ・ホウチャクソウ・ホトトギス・ヤマユリ・キンラン・キンラン・シュンラン・オオハギホウシ・ヤブラン・タチツボスミレ・ヤブコウジ・リントウ・ヤマルリソウ・アキノタムラソウ・キッコウハクマ・ヤブレカサ・シラヤマギク	モンキアゲハ・シジギアゲハ・キマラダヒカゲ類・クツワムシ・アブラセミ・ミンミンゼミ・ヒゲラシ・オオヒラタシテムシ・スズメバチ類・コケラ類
大根地区	ヒトリシズカ・フタリスズカ・ホウチャクソウ・ヤマユリ・キンラン・キンラン・エビネ・シュンラン・オオハギホウシ・ヤブラン・タチツボスミレ・ヤブコウジ・イチヤクソウ・リントウ・アキノタムラソウ・オケラ・ヤブレカサ・シラヤマギク	アオシジギアゲハ・モンキアゲハ・キマラダヒカゲ類・クロコノマチョウ・ハヤシノウマオイ・クツワムシ・エゾツユムシ・ニホントビナナフシ・アブラセミ・ミンミンゼミ・ヒゲラシ・オオヒラタシテムシ・カフトムシ・スズメバチ類・カラ類・コケラ類
西地区	カンアオイ類・フタリスズカ・ホウチャクソウ・ホトトギス・ヤマユリ・キンラン・キンラン・シュンラン・オオハギホウシ・ヤブラン・ニリンソウ・タチツボスミレ・ヤブコウジ・イチヤクソウ	クロコノマチョウ・ハヤシノウマオイ・クツワムシ・ミンミンゼミ・スズメバチ類・カラ類・コケラ類・タヌキ、アナグマの痕跡





	ウ・ヤマルリソウ・アキノタムラソウ・ヤブレガサ・シラヤマギク	
上地区	ヒトリシズカ・フタリシズカ・ホウチャクソウ・ホトトギス・ヤマユリ・キンラン・ギンラン・シュンラン・オオバギホウシ・ヤブラン・タチツボスミレ・ヤブコウジ・リントウ・アキノタムラソウ・ヤブレガサ・シラヤマギク	モンキアゲハ・クロノマチョウ・ハヤシノウマオイ・クツワムシ・アブラゼミ・ミンミンゼミ・ヒゲラシ・コゲラ類

考察

(植物)

市内 14 か所の雑木林調査によって指標植物 25 種中 24 種が確認された。全域に分布していた指標種はフタリシズカ、ホウチャクソウ、ヤマユリ、キンラン、ギンラン、ヤブレガサなど 12 種であり、広域的に分布していた指標種も 4 種あった。局地的に確認された指標種はキッコウハグマとエビネであり、このうちエビネは神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006 で絶滅危惧Ⅱ類に指定されている。10 年前の同調査と比較しても指標種数の減少は見られず、全体的に環境は良好に保たれていると言える。

外来種は各地区に 1～2 種入り込んでいるが、セリバヒエンソウとオオキンケイギクは確認されなかった。

(動物)

対象雑木林 14 か所で確認された指標動物は 25 種中 22 種であり、全域で確認されたのはクツワムシ、ミンミンゼミ、コゲラ類であった。モンキアゲハ、クロノマチョウ、ハヤシノウマオイ、アブラゼミ、スズメバチ類は広域に分布していたが、ハラビロカマキリ、フキバッタ類、エゾツユムシ、ニホントビバナフシ、ハンミョウ、クロカナブンは限定された地区のみで確認された。指標動物が最も多く確認された南地区の震生湖や立野緑地、東地区の名古木は多様な生物が生息できる豊かな自然環境が保持されているものの、同時に外来種も 3～5 種ほど確認されており、早急な外来種対策が課題となっている。



(ウ) 公園、神社

調査地	確認された指標植物	確認された指標動物
公園 1	ヒガンバナ・ヤブラン・タチツボスミレ	シオカラトンボ・アオスジアゲハ・アブラセミ・ミンミンゼミ・カラ類・コケラ類
公園 2	ツツリガネニンジン・リンドウ・	シオカラトンボ・カワニナ・アオスジアゲハ・アブラセミ・カラ類・コケラ類・
公園 3		トシヨウ・ホトケトシヨウ・ミスカマキリ・シアマメンボ・サワガニ・カワニナ
公園 4		
公園 5	ケキツネノホタン・ミゾソバ類・ツリフネソウ・セリ	ヤマアカガエル・ニホンイモリ・ホトケトシヨウ・オニヤンマ・ハクロトンボ・シオカラトンボ・ケンジボタル・ハイケホタル・サワガニ・カワニナ
公園 6	ヒガンバナ・ケキツネノホタン・セリ	シオカラトンボ・サギ類・アオスジアゲハ・モンキアゲハ・アブラセミ・ミンミンゼミ
神社 1	ヒガンバナ・セリ・ウラシマソウ・ホウチャクソウ・オオバキホウシ・ヤブラン	ホトケトシヨウ・シアマメンボ・ケンジボタル・サワガニ・カワニナ・アオスジアゲハ・アブラセミ・カラ類・コケラ類
神社 2	カンアオイ類・ホウチャクソウ・ヤマユリ・ヤブラン・タチツボスミレ	カワニナ・アオスジアゲハ・アブラセミ・ミンミンゼミ・ヒケラシ・スズメバチ類・カラ類・コケラ類
神社 3	ミゾホオスキ・ウラシマソウ・ホウチャクソウ・ホトトギス・ヤブラン・タチツボスミレ・ヤブコウジ	シアマメンボ・オニヤンマ・サワガニ・カワニナ・カラ類・コケラ類
神社 4	セリ・ウラシマソウ・ホウチャクソウ・ヤブラン・タチツボスミレ・ヤブコウジ	アブラセミ・ミンミンゼミ・スズメバチ類

・ 考察

(植物)

(動物)

作成中





(エ) 河川

河川	調査地	確認された指標種
大根川	上流	カリナ・オニヤンマ・ナガレトビケラの仲間・イシビルの仲間・ミスムシ・クサヨシ・ミゾソバ・セリ
	下流	オニヤンマ・イシビルの仲間・ミスムシ・ヌマエビの仲間・アブラハヤ・シマヨシホリ・ヨシ・ヤナギ類・オオイトダテ・ミゾソバ・セリ・サギ類
金目川	上流	ナミウスムシ・サワガニ・ヒラタカゲロウの仲間・モンカゲロウの仲間・カケラの仲間・オニヤンマ・ムカシトンボ・ヘビトンボの仲間・シマトビケラの仲間・ヒゲナガカワトビケラの仲間・カクツツトビケラの仲間・フササクラ・セリ
	中流	カリナ・サワガニ・ヒラタカゲロウの仲間・モンカゲロウノカマ・カケラの仲間・コオニヤンマ・オニヤンマ・ヘビトンボの仲間・シマトビケラの仲間・ナガレトビケラの仲間・ゲンジボタル・イシビルの仲間・アブラハヤ・シマトジヨウ・ヨシホリの仲間・カジカガエル
	下流	サワガニ・ヒラタカゲロウの仲間・カケラの仲間・ヒゲナガカワトビケラの仲間・イシビルの仲間・ミスムシ・ヌマエビの仲間・アブラハヤ・ヨシホリの仲間・シマヨシホリ・ツルヨシ・オオイトダテ・ミゾソバ・フササクラ・キセキレイ・カジカガエル
葛葉川	上流	ナミウスムシ・カリナ・サワガニ・モンカゲロウの仲間・カケラの仲間・オニヤンマ・ヘビトンボの仲間・シマトビケラの仲間・ヒゲナガカワトビケラの仲間・ナガレトビケラの仲間・カクツツトビケラの仲間・イシビルの仲間・カジカ・シマヨシホリ・ススキ・ツルヨシ・ミゾソバ・カジカガエル
	下流	
四十八瀬川	上流	サワガニ・ヒラタカゲロウの仲間・モンカゲロウの仲間・カケラの仲間・オニヤンマ・シマトビケラの仲間・ヒゲナガカワトビケラの仲間・ナガレトビケラの仲間・カクツツトビケラの仲間・ヤマメ・アマコ・カジカ・ススキ・オキ、フササクラ・カジカガエル
	中流	サワガニ・ヒラタカゲロウの仲間・モンカゲロウの仲間・カケラの仲間・コオニヤンマ・オニヤンマ・ヘビトンボの仲間・シマトビケラの仲間・ヒゲナガカワトビケラの仲間・ナガレトビケラの仲間・カクツツトビケラの仲間・アブラハヤ・カジカ・ヨシホリの仲間・ススキ・オ





		ギ・ツルヨシ・ミゾソハ・セリ・カジカガエル・タコガエル
	下流	ナミウスムシ・サワガニ・ヒラタカゲロウの仲間・カケラの仲間・コオニヤンマ・オニヤンマ・ヘビトンボの仲間・シマトビケラの仲間・ヒゲナガカワトビケラの仲間・ナガレトビケラの仲間・カクツツトビケラの仲間・ウグエイ・シマトシヨウ・カジカ・ヨシノボリの仲間・ススキ・ツルヨシ・ヤナギ類・オオイヌタテ・ミゾソハ・フササクラ・キキレイ・カジカガエル
水無川	上流	サワガニ・ヒラタカゲロウの仲間・モンカゲロウの仲間・カケラの仲間・ヘビトンボの仲間・シマトビケラの仲間・ヒゲナガカワトビケラの仲間・ナガレトビケラの仲間・カクツツトビケラの仲間・カジカ・ススキ・ツルヨシ・カジカガエル
	中流	カリナ・ヒラタカゲロウの仲間・カケラの仲間・ヘビトンボの仲間・ヒゲナガカワトビケラの仲間・イシビル <small>の仲間</small> ・ミスムシ・アブラハヤ・オギ・ツルヨシ・オオイヌタテ・カジカガエル
	下流	サワガニ・ヒラタカゲロウの仲間・カケラの仲間・イシビル <small>の仲間</small> ・ミスムシ・アブラハヤ・オギ・ツルヨシ・セリ・カジカガエル
室川	上流	カリナ・サワガニ・モンカゲロウの仲間・カケラの仲間・オニヤンマ・ヘビトンボの仲間・アミカの仲間・イシビル <small>の仲間</small> ・ミスムシ・ヨシ・ミゾソハ・セリ
	下流	ナミウスムシ・サワガニ・ヒラタカゲロウの仲間・カケラの仲間・オニヤンマ・シマトビケラの仲間・ヒゲナガカワトビケラの仲間・ナガレトビケラの仲間・イシビル <small>の仲間</small> ・ミスムシ・ヌマエビ <small>の仲間</small> ・アブラハヤ・ヨシノボリの仲間・シマヨシノボリ・ツルヨシ・オオイヌタテ・ミゾソハ・セリ

・ 考察

作成中

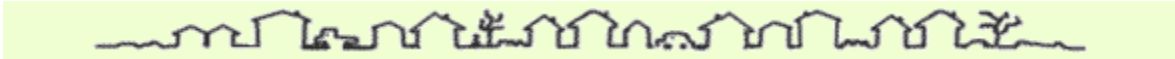




エ 外来生物・要注意種

	指標種	調査地
植物	セリバ ^レ ヒエンソウ	西・
	オオフサモ	東
	アレチヌスビ ^ト ハギ ^ク	東・上・南・公園1・神社2
	オランダ ^カ ガラシ	東・西・南・大根・鶴巻・公園2・公園5・
	オオキンケイ ^ク	なし
	ナガ ^ミ ヒナゲシ	東・西・公園1・公園6・神社1
	マルハ ^{フジ} ハ ^カ マ	東・南・大根
	オオカナダ ^モ	なし
	コカナダ ^モ	なし
	ハリエンジ ^ユ	四十八瀬川（下流）、水無川（上流）
	シナダ ^{レスス} メ ^カ ヤ	なし
	アレチウリ	大根川（上流）、四十八瀬川（上流・下流）
	オオカラジ ^{シヤ}	金目川（下流）
動物	ウシカ ^{エル}	南・公園6
	カタ ^{ヤシ}	なし
	アメリカザ ^{リガ} ニ	東・上・西・南・鶴巻・公園3・公園4・公園6・神社1・神社3、大根川（下流）
	サカマキ ^カ イ	東
	スクミリンコ ^ガ イ	鶴巻
	アカホ ^{シコ} マ ^タ ラ	東・南
	アオマツムシ	北・東・上・西・南・大根・公園2・神社1・神社2・神社3・神社4
	クマゼ ^ミ	南・公園2・神社4
	ムネアカハラビ ^{ロカ} キリ	東・西・神社1
	ガ ^ビ チョウ	東・西地区・公園2・神社2・神社3
	ヤマビ ^ル	東・西・大根地区
	ミシッピ ^{アカミ} カ ^メ	大根川（下流）





生き物調査で確認された特定外来生物	
分類群	特定外来生物
哺乳類	なし
鳥類	ガビチョウ
爬虫類	なし
両生類	ウシガエル
魚類	ブルーギル、コクチバス、オオクチバス
昆虫類	アカボシゴマダラ
甲殻類	なし
クモ・サソリ類	なし
軟体動物等	なし
植物	アレチウリ、オオフサモ、オオカワジシャ

・ 考察
(動物)

作成中

(植物)

オ 総括

作成中





(2) 生物多様性保全への取組み

ア 自然とのふれあい

市の取組み	市民・事業者が協力できること
<ul style="list-style-type: none">・森林や里地里山の地域資源を利用したイベントを実施し、自然とふれあう機会をつくります。	<ul style="list-style-type: none">・イベントに積極的に参加、協力します。

イ 環境学習の実施

市の取組み	市民・事業者が協力できること
<ul style="list-style-type: none">・エコスクールなど学校や地域で実践的な環境教育・学習の場を作ります。・環境情報の発信や啓発を進めます。・環境保全に携わる人材の発掘や育成に努めます。	<ul style="list-style-type: none">・環境学習・教育・体験活動に積極的に参加、協力します。

ウ 動植物の分布の把握や保護

市の取組み	市民・事業者が協力できること
<ul style="list-style-type: none">・団体等と協力して継続的に生物調査を継続して実施します。・野生動物を保護し、適正な管理に努めます。・外来動植物について市民に周知し、駆除への協力や市内パトロールなどを実施します。	<ul style="list-style-type: none">・外来動植物の駆除等、外来種対策に協力します。・動植物の適切な飼育、栽培管理をします。

エ 緑地の保全・創造

市の取組み	市民・事業者が協力できること
<ul style="list-style-type: none">・環境創出行為に対して、緑地等指導を行っていきます。・「生き物の里」を指定するとともにその活動を充実させ、谷戸田などを保全します。・樹林保全地区の指定、みどり基金等の活用により緑を保全します。	<ul style="list-style-type: none">・「生き物の里」の適切な管理、活用に努めます。・樹林保全地区の適切な維持管理に努めます。





オ 環境ボランティア団体への支援

市の取組み	市民・事業者が協力できること
・環境ボランティア団体への支援や連携など、環境保全活動を推進します。	・環境ボランティアの育成に努めます。

(3) 将来的な展望

相互に関連、複雑化している環境・経済・社会問題を解決するため、各地域が地域資源を補い支え合い、その特性を生かした自立・分散型の社会を形成する「地域循環型共生圏」という考え方が提唱されています。

本市においては、里地里山を始めとする豊かな自然環境の保全により、地域の活性化を図ることが地域循環型共生圏の構築に繋がるものと考えています。

現在、様々な団体等の活動により、本市でも生物多様性が保全されている地域があります。このような団体等と連携することで、この特性を保全・活用・発信し、地域活性化に繋げていきたいと考えています。





- ・ 自然に触れる機会の提供
- ・ 環境情報の啓発
- ・ 野生動物の保護や外来種対策
- ・ 環境に携わる人材の発掘や育成
- ・ ボランティア団体との連携、支援
- ・ 環境保全や創造



